

# 県内の子どもも9万358人

## 44年連続減、最少更新

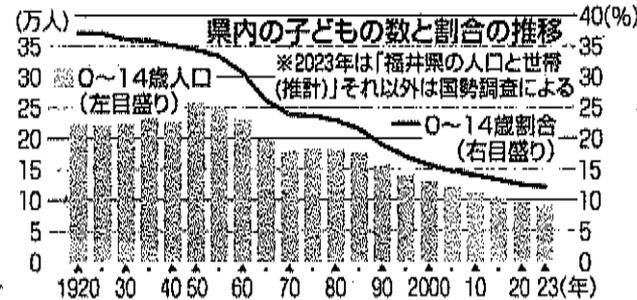
「子どもの日」を前に県が一日に公表した集計によると、県内の十五歳未満の子どもの数は、四月一日時点で九万三千五百五十八人となり、前年同期と比べ二千三百七十三人減った。一九八〇（昭和五十五）年から四十四年連続の減少で、国勢調査が始まった二〇（大正九）年以降の過去最少を更新した。＝解説⑦面

（玉田能成）



福井の人口問題を追う

性別の内訳は男子が四万六千四百六十五人、女子が四万三千八百九十三人。五歳ごとの数をみると、〇～四歳が二万六千五百五人、五～九歳が二万二千九百九十四人、十～十四歳が三万三千九百五十九人となった。県内総人口（七十四万六千七百三十三人）に占める



子どもの割合は12・1%で、前年より0・2%減った。

総務省が四日公表した集計によると、外国人を含む十五歳未満の子どもの数（四月一日時点）は前年より三十万人少ない千四百三十五万人で、四十二年続けて減少した。人口推計から算出した。総人口に占める割合は0・2%低下して11・5%。人数、割合とも比較可能な一九五〇年以降の最低を更新した。

岸田文雄首相は「異次元の少子化対策」を掲げ、四月には子ども家庭庁を新設。子育て世帯支援などの財源確保について検討を進めているが、子ども人口減少の

た。

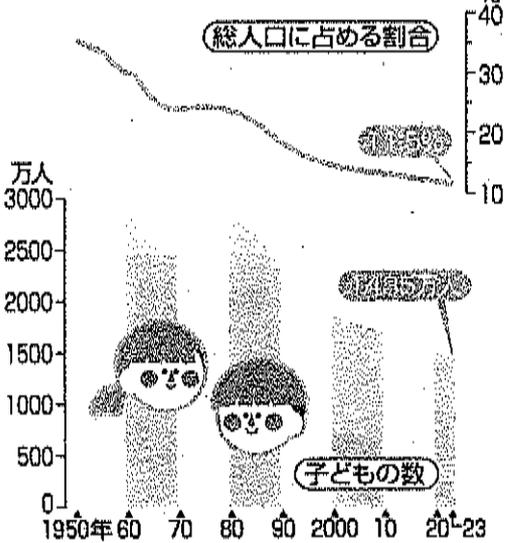
総務省が発表している人口推計（二〇二三年十月時点）によると、都道府県別の子どもとの割合が最も多いのは沖縄県で16・3%で、滋賀県と佐賀県が13・2%と続いた。福井県は12・2%で十一番目となり、一九年以降は同じ順位。北陸三

## 全国でも減少 1435万人

流れを反転させられるかどうか実行力が問われる。男子は七百三十五万人で、女子は七百万人。三歳ごとの年齢層別に見ると、

年齢が低くなるほど人数が少ない。十二～十四歳が三百二十一人に対し、〇～二歳は二百四十三万人と約四分の三で、少子化の進行

子どもの数と総人口に占める割合  
※2022、23年は4月1日時点、21年までは10月1日時点



のは沖縄県で16・3%で、滋賀県と佐賀県が13・2%と続いた。福井県は12・2%で十一番目となり、一九年以降は同じ順位。北陸三

県と比較すると、石川県11・8%、富山県10・9%で福井が最も高くなっている。

人口推計 政府の基幹統計で、5年に1度の国勢調査を基に、出生数や死亡数、出入国者数の増減などから人口を算出する。毎月1日時点は全国の人口、毎年10月1日時点は都道府県別人口を含む詳細データをまとめる。3カ月を超えて日本に滞在する外国人も対象とする。「子どもの日」「敬老の日」などに合わせ、子どもや高齢者の数も特別に集計している。